



空白の失楽園 (空白
シリーズ⑥)
荒巻義雄
祥伝社 (新書)
(5/1刊・¥680)

空白シリーズ第六弾。本書で終る予定だったのだが、さらに一巻が追加されるようだ。前巻から、インドを中心にドラマが進行している。本書も、大半はインドが舞台である。

今回は「黄金の胎児」教が登場。自殺した石切増夫と、その妻夕子。彫刻家の木造は、偶然、初恋の相手だった夕子と出会う。彼女は教祖であるラムグースから逃れようとしていた——教祖の秘密とは何か。謎を追うのは、前作でもおなじみの新沢大作。舞台がインドに移ってからは、遺跡やホテルの写真なども入って、ちょっととした観光案内風のところもある。「黄金の胎児」教団は、インドに本拠がある。そして、教祖には「悪霊」が乗り移っていた。新沢は教団本部に侵入し、教祖と対決する。

本書では、前作ほど、インドにからむインパクトはないように感じた。ただ、本巻ではこのエピソードが完全に終っておらず、次作(あるいはそれ以降)まで続くようだ。インドと地球——宇宙の本質に迫る物語の展開に期待したい。評価は、全巻完結時点まで待つべきだろう。